

新年度も引き続きご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

●寄付のかたち=500円玉貯金で毎年功労者に=
第2610地区元米山奨学委員長、林和夫さん(富山みらいRC)が今年6月、第16回米山功労者となりました。林さんは2007年から“500円玉貯金”を始め、毎年10万円を寄付してくださっています。“500円玉貯金”による寄付を始めたきっかけは、同じクラブの水口益克会員が例会で、「500円玉貯金をして1年間分を米山に寄付している」とスピーチしたこと。以来、買い物や外食の支払いでは500円玉でおつりをもらうよう意識し、500円玉が手に入るたびに貯金箱に入れています。「地区米山委員長になる前は、大した関心もなく寄付をしていた。米山に関わらなかつたら、私にとってロータリアンであることは単なるステータスにすぎなかつたかもしれない。表彰対象の10万円を一度に捻出するのは大変だが、どうやって500円玉で釣りをもらうか知恵をしぼり、貯金箱の重さを楽しみながら寄付している」と、米山奨学事業への熱い思いを語ってくださいました。

DVDシリーズ『学友マイ・ストーリー』第1弾 近日発売!
1人の学友の活躍を1つのDVD作品にまとめた『学友マイ・ストーリー』シリーズを近日発行します。優れた米山学友の卓話を聞くイメージで、例会等で上映していただけます。第1弾は、スーダン出身のモハメド・オマル・アブデインさん。ご希望のクラブにはDVDを無料でお送りします(7/18~)。ご注文は当会事務局・広報担当まで。

第1回理事会 議事録

平成26年7月3日(木)12:00~
名古屋クレストンホテル 例会場
出席者 永井、西川、岩田、長谷川、小菅、磯部、藤田、松尾、渡邊、後藤、矢野、和田
議題

1. 退会承認の件(6/30付遡り承認)
加藤久明さん
2. その他

第1回クラブアッセンブリ議事録

平成26年7月3日(木)13:40~
名古屋クレストンホテル クラウンルーム
出席者 永井、西川、岩田、長谷川、小菅、磯部、藤田、松尾、渡邊、後藤、矢野、和田、高山、山崎、亀井
議題

1. 2014-15年度委員会事業計画
2. その他

ロータリーニュース (ROTARY JAPAN WEBより転載)

WHO(世界保健機関)が東南アジア地域での ポリオ撲滅宣言を公式に表明

3月27日、世界ポリオ撲滅計画(GPEI)は、WHO(世界保健機関)が東南アジア地域の国々でポリオが撲滅したことを祝いました。ポリオに終止符を打ち、そのことによって多くの利益がもたらされる、歴史的な出来事です。こ

の地域の11か国(バングラデシュ、ブータン、北朝鮮、インド、インドネシア、モルディブ、ミャンマー、ネパール、スリランカ、タイ、東ティモール)には、約18億の人が住み、世界を6つに分けたWHOの地域で公式にポリオ撲滅が認められた4つ目の地域になります。

かつてポリオの撲滅が最も難しいと考えられていたインドで2011年1月13日を最後に発症していないことが、この地域での撲滅宣言を可能にさせました。スリランカ、モルディブ、ブータンなどの国では、すでにポリオが撲滅されており、この日が来るのを15年以上待っていました。これらの国々でポリオを撲滅するために築き上げられた優れたシステムは、現在、ほかの保健優先事項を推進するために使われています。バングラデシュでは、義務付けられているワクチン(ジフテリア、破傷風、百日ぜき)の接種率が、ポリオ撲滅活動を強化していた2000~2012年の間に82%から96%に上昇。ネパールでも74%から90%に上がりました。またポリオサーベイランス(調査監視)のネットワークを生かして、はしか、新生児破傷風、日本脳炎のような、ワクチンで予防可能な疾病の感染経路を追跡している国もあります。

東南アジア地域においてポリオ撲滅が達成できたのは、ワクチン投与キャンペーンを実施するという各国政府の前例のない取り組みのたまものです。キャンペーンでは、何百万人という地域の保健従事者やボランティアたちが、街の最もにぎやかな通りに面した家から、辺境の地にある家に至るまで、一軒一軒献身的に訪問し、ワクチンを受けた子どもの総数は、17年間で75億人に上りました。1995~2012年の間、ポリオプログラムは同地域のいたるところで189の全国的なキャンペーンを行い、130億ダースの経口ワクチンが投与されました。

同地域の撲滅の達成は、2018年までにポリオのない世界にするというGPEIの目標への大きな一歩となりました。感染を阻止し、ワクチン投与率を上げ、子どもの死亡率に影響を及ぼす長期的な計画であるにもかかわらず、新しい取り組みや、新たなパートナーのおかげで世界的に前進しています。しかし、この進歩もポリオが残る3か国(アフガニスタン、パキスタン、ナイジェリア)で撲滅しない限り、危険にさらされています。近年、中東とアフリカの角でポリオが突然発症したことは、ポリオがすべての地域を脅威にさらしていることを思い出させてくれました。これらのポリオ常在国でポリオが撲滅するまで、すべての国でポリオウイルスが流入した際には迅速に見つけ、その影響を最小限にするために、細かいサーベイランスを継続し、高いワクチン投与率を保つ必要があります。現在、世界の人口の80%は、ポリオがなくなるとされる地域に住んでいます。今までになく目標に近づいています。

GPEIは、各国政府、WHO、国際ロータリー、CDC(アメリカ疾病対策センター)、ユニセフが主導し、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団など官民の連携パートナーによって支援されています。1988年GPEIが発足した当時、ポリオで命を落としたり手足が不自由になったりする子どもは年間35万人いましたが、2013年には99.9%減少し、406件の発症が報告されるまでになりました。